

夢と理想は ビジネスで 実現する

氷河期世代が目指す新しい野望の形

一人ひとりがエンジンマーク。世界を変えたい。

社会貢献のビジネスモデルをつくりたい。

ホリエモン以後、新世代の野心家がめざすビジネスとは？

ライター 齋藤真紀子 イラスト ワタナベケンイチ 写真 家老芳美

に設立した。識字率アップを掲げ、世界9カ国で本や学校、図書館を寄贈してきた。

米サンフランシスコを拠点に、支部は世界各国・地域に42カ所。日本の寄付額は香港、ロンドンについて第3位。資金集めに奔走しているのは約1000人のボランティアスタッフだ。他の国に比べてもその数もやる気も伸び盛りの「優秀チーム」だ。

数値化されたビジョン

今年1月、その取りまとめ役

として、日本初の職員に採用されたのが、松丸佳穂さん（36）だ。

2年前、友達に「手伝って」と言われたのが始まりだった。以来、ボランティアとしてイベントの運営にかかわってきた。

それまではリクルートや出版社で編集や広報の仕事に追われ、チャリティーにもボランティアにも興味がなかった。だが、いつの間にか活動にのめりこんでいた。他のボランティアスタッフと終業後にメールで連絡を取り合い、土日を使ってミーティングやイベントに参加した。

上旬、東京・八芳園で開かれたイベント。「社会貢献」は楽しく気楽に！の趣旨に賛同して集まつた約600人がカンパニー！

会社帰りにビールでのどを潤せば、途上国の子どもたちに本を1冊プレゼントできる。3月

を贈る。1年前から毎月、都内のパブやレストランで開かれている。

上旬、東京・八芳園で開かれたイベント。「社会貢献」は楽しく気楽に！の趣旨に賛同して集まつた約600人がカンパニー！ビール1杯分の値段に、上乗せされた100円で、アジアやアフリカの子どもたちに本1冊

ルーム・トウ・リード ジャパン専属職員

松丸佳穂さん

3月のジョン・ウッドさん来日の際、「アテンドをして驚いたのは、毎日手書きでたくさんの人にお札状を書いていたこと」。スピード感と行動力に日々刺激を受けている。将来は日本のおどもたちが本に夢中になるような読書プログラムをつくるのが夢

心を動かされたのは、明確な

イニシアチブや、アフリカの子どもたちに本を1冊

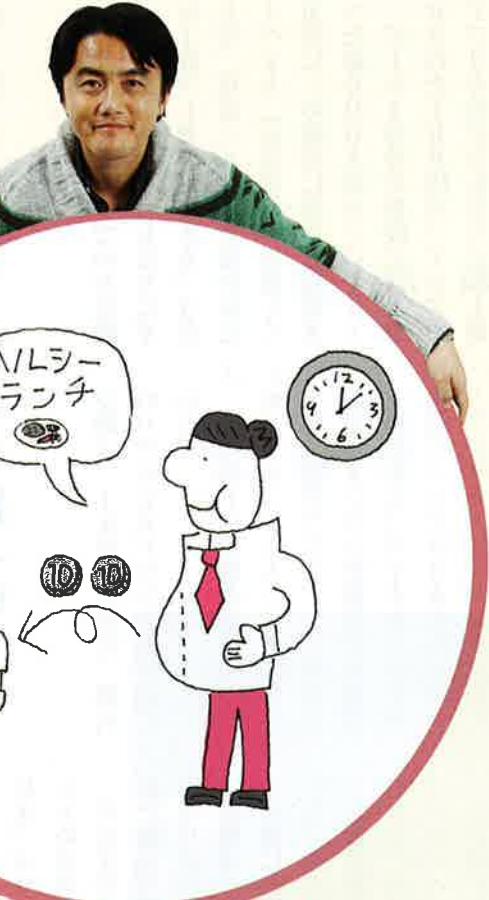


と心から信じることができる。
モーレツ社員だったころより忙
しいはずなのに、どういうわけ
か疲れ知らずだ。

ふらしている。若い女性教師が
元気づける歌をうたって、励ま
していた。

すでにテーブル・フォー・ツー

持続できる支援の形



テーブル・フォー・ツー事務局長

小暮真久さん

国際援助のニーズと社会に貢献したいという気持ちをマッチングさせるプロデューサーとしての任務は、「想いを生かせる天職。困難があつても、自分がやるべきこと」という迷いがない仕事ですね」

会社のためではなく、社会のために働きたい。それも「ビジネスモデル」をつくって実現したい。

「テーブル・フォー・ツー」というNPOで事務局長を務める小暮真久さん(37)も、会社員から転身組だ。

今年2月、旱魃の被害が著しいエチオピア北部のメケレといふ地方を訪れた。給食が必要な子どもたちを観察するためだ。1日1度の食事もままならない小学生が、集中力を欠いてふら

3年ぶりに再会した14歳の女の子は、目をきらめさせて話した。この笑顔が小暮さんの背中を押してくれる。

テーブル・フォー・ツーは企業の社員食堂やレストランで、カロリー控えめの健康食を提供し、1食20円分をアフリカの学校給食1食分にあてる活動をしている。今すぐに給食が必要な

ビジョンと、ほかのスタッフの「死に物狂い」な熱意だった。
「2015年までに、1000万人の子どもたちが文字を読めるようにする」

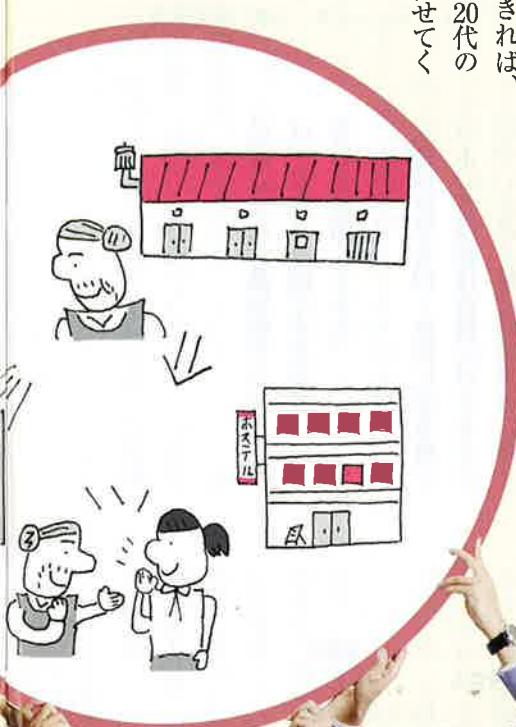
ジョン・ウッドさんの掲げた目標は壮大だが、資金調達の額や使途が明確に数値化されていた。「これは実現できる」と確信した。

いまは、みずから個人や企業のCSR担当者に会いにいき、協賛を募る毎日だ。オフィスは金融機関の会議室を無償提供してもらった。今年の資金調達の目標額は達成できそうな勢いだ。リクルートの社員だった20代、

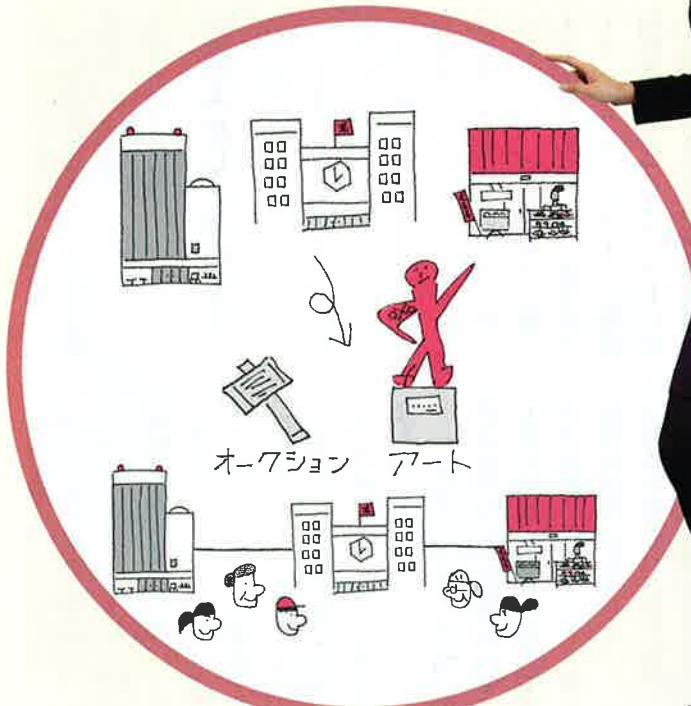
「どうか」

隅に、

「このままいいんだ
うか」「これが自分
のやりたい仕事なんだ
うか」



設立者である外資系コンサルタント「マッキンゼー」時代の先輩に誘われて始めた活動。収入は4分の1に減った。その現実について聞くと、こんな答えが返ってきた。



感情に触れる仕事を

スとして実現できたときに、や
りがいや幸せを感じます」

「貧困問題」という“憤り”的現状を解決するシステムをビジネスへ

円を集めるのは、並大抵のことではない。長期にわたって持続的な支援の仕組みをつくるのが小暮さんの役目だ。企業に働きかけ、ボランティアスタッフと資金集めのプロジェクトを練り、年に数回アフリカへ現地視察に赴く。

学校は、アフリカに「気が遠くなるほど」無数に存在する。だが、1年分の給食費2800万

とが、収入が増える充足感と一致する感覚になりました」

日産自動車
大宮千絵さん

どうしたら疲れず、楽しみながら三つの活動を続けるかを考え、買い物・映画・飲み会・スノーボードにも出かける。多忙なときは1日30分ぐらいい「何も考えない」時間を作り、できていること、できていないことを確認、「全体としてゴールに近づいている」と考えるようにしている。

書やメディアで知られるにつれ「手伝いたい」という人たちが集まり、いまは100人近い社会人ボランティアがかかわる。「熱意と仕事のスキルを持つた社会人との共同作業時間が、エネルギー源です」

30代だ。

企業でもつとも長時間労働を

「外資系金融勤務、35歳男性」

強いられているはずの20代、30

代なのにすきま時間や週末を

使つてまで、なぜ社会貢献活動
ニヨミツ、一らひ。ニーブレ

はミニットするのか テレフル
・フォードツーにかかる会社

貝の声を聞いた。

ビジネスを通じて、世界をハッピーにした。その気持ちを

30代、40代でも持ち続けていた

い。その熱意を本業にも還元して、一々三商社勤務、（新日本）

明さん、29歳

「社会貢献に関心がある、ゾ

「シヤルな」社会人になりたい
会社でなく、個人の意思だ

会社が「一歩」進むのを助ける

デルや仕組みをつくるて問題解決の道しるべ

決の流れを「くりだい」(大手商社勤務、榎本彩希さん、28歳)
えのもとさいき

「08年の金融危機後、金融界でも価値観が変わっている。自分達のスキルをいかして感情に触れ

コンパスポイント
(右から)事務局メンバーの飯田智紀さん、向江一将さん、小保健三郎さん。集まると「志のレバッジになります」。NPO「テーブル・フォー・ツー」や、コトラボ合同会社の寿町「コトづくり」、NPO「ミレニアム・プロミス・ジャパン」などのプロジェクトに協力している



スウィート・スマイル代表

山崎ひな子さん

スイート・スマイルの活動のほか、ホームレス支援や孤児院、老人ホーム訪問、フェアトレード事業も手伝う。フェアトレードは、途上国の小規模農業者などから職業支援のため、適正な価格で商品を買い取り、消費者に販売する。「勉強のため、経済学部の授業も聆听しました」



自分も笑顔でいたい

現代福祉学部への入学の動機は、小学生のときに読んだアフリカの飢餓問題の新聞記事だった。大学に入ると、老人ホームや孤児院で、ボランティアを四つも五つもかけもちした。人に喜んでもらうのは楽しかった。親は「ホームレスの人たちを助ける暇があつたら、学費を稼ぎなさい」と反対した。早朝に力フエでバイトして、生活費を稼

崎ひな子さん（22）は、いつたん就職を諦めた。08年度のミスキヤンパス。他大学のミスキャンパス5人と「スワイート・スマイル」を立ち上げた。知名度を生かして、NPOのキャンペーンなどをバックアップする。

「社会人としての経験はまだ浅いけど、みんなで力を合わせればアイデアを実現できる」
この春法政大学を卒業する山口

たい。週末や半休を利用して企
画を練り、企業に出向いて協賛
を募る。商店街や自治体、学校
にもはたらきかけ、アートオー
ースづくりに協力してもらう。

高校時代は、女性ファッショ
ン誌「V・i・V・i」の読者モデル、「ザ・ミーハー」だった。ところが、大学でボランティアを始めたら、気持ちが満たされ、おしゃれにも貢献する物にも興味が薄

就職活動ではJICAやNPOも回った。しかし、「自己犠牲」を説かれたり、「ミスキャンパースだからと思いあがるな」とかられたり。自分にとって、社会貢献は明るいイメージだ。

れた。ミスキャンパスに応募したのは、「自分の言葉をブログやスピーチなどで、大勢の人々に伝える機会ができるから」だ自己PRではマイクを握り、「一日一日幸せを感じて生きよう」と語った。

高校時代は、女性ファッショ
ン誌「V・i・V・i」の読者モデル、「ザ・ミーハー」だった。ところが、大学でボランティアを始めたら、気持ちが満たされ、おしゃれにも貢献する物にも興味が薄

将来の夢は一人ひとり簡単に社会貢献ができる仕組みをつくること。商品の購入やイベント参加などで、企業を通して寄付ができる「コード・リレーテックド・マーケティング」式のビジネスモデルなどを考えていく。「スワイート・スマイル」を続けながら、複数のNPO団体を

貢献は明るいイメージだ。社会で
「一人でも多くの人を笑顔に
するには、自分も笑顔でいたい
そうでなければ見返りを求めて
しまうから」

就職活動ではJICAやNPPも回った。しかし、「自己犠牲を説かれたり、「ミスキャンパースだからと思いあがるな」と叱

れた。ミスキャンパスに応募したのは、「自分の言葉をブログやスピーチなどで、大勢の人々に伝える機会ができるから」だ自己PRではマイクを握り、「一日一日幸せを感じて生きよう」と語った。

高校時代は、女性ファッショ
ン誌「V・i・V・i」の読者モデル、「ザ・ミーハー」だった。ところが、大学でボランティアを始めたら、気持ちが満たされ、おしゃれにも貢献する物にも興味が薄

四

19

○

○

8 of 8